

研究課題

頭頸部腫瘍における遺伝子・蛋白動態解析研究

1. 研究の対象

2008年から2020年3月までに当院で頭頸部腫瘍又はその疑いがあると診断された方

2. 研究目的・方法

この研究は、頭頸部腫瘍の病気の成り立ちを、遺伝子の面から明らかにしようとするものです。これらの腫瘍の発生には多くの遺伝子が関係しており、さらに生活習慣や生活環境など遺伝に関係しない要素も影響を及ぼしています。したがって、その遺伝性を決めている遺伝子を明らかにするためには、多くの方にご協力をいただいて、病変部とそうでない部分の間で、いくつもの遺伝子について比較する必要があります。頭頸部腫瘍に関わる遺伝子が明らかになれば、ある人が頭頸部腫瘍になりやすいかどうかということや、どういう仕組みで腫瘍ができるのかということ明らかにできることが期待できます。さらに、これにより発症の予防、最適な治療法を選択、新しい治療法の開発などについて発展していくことが期待されます。

通常の外来検査の際にあなたから採取された血液の一部を使用させていただきます。基本的に治療開始前、治療開始後の2回分使用させていただきます。また、外科的に取り除いた腫瘍の一部（外来での生検も含みます）と、同時に切除されるその周囲の腫瘍ではない正常部の一部を採取させていただきます。その検体から核酸と蛋白質および低分子化合物を取り出して、頭頸部腫瘍に関係のありそうな遺伝子の状態や遺伝子多型（一般的に認められる遺伝子配列の変種）、蛋白質、低分子化合物の動態について、千葉大学の耳鼻咽喉・頭頸部腫瘍学および機能ゲノム学、分子腫瘍学、免疫発生学、腫瘍病理学の研究室並びに共同研究機関である（公財）かずさDNA研究所において解析させていただきます。また、臨床的、病理学的に得られる情報も本研究に用いることとなります。

研究期間は2015年4月から2020年3月31日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：血液および腫瘍と正常部の組織標本（手術検体や外来での生検）等と、そこから抽出された核酸と蛋白質および低分子化合物等が含まれます。

情報：カルテ番号、生年月日、病歴、治療歴、病理結果、副作用、治療歴 等

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関や海外に提供する場合には、特定の関係者がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5 . 研究組織

千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学 岡本 美孝

千葉大学大学院医学研究院 分子腫瘍学 金田 篤志

千葉大学大学院医学研究院 機能ゲノム学 関 直彦

千葉大学大学院医学研究院 腫瘍病理学 池原譲

千葉県がんセンター 頭頸科 佐々木慶太

浜松医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 三澤清

かずさ DNA 研究所 小原収

6 . お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

千葉大学大学院医学研究院

耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学 教授 岡本 美孝（研究責任者）

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

電話：043-222-7171 内線 5353

耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学

研究代表者：

千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学 教授 岡本 美孝

-----以上